

【(8) 教材・教具】

⑨「読み書きの際の補助具等を使用している」

《つまずきの背景》

- A 刺激の影響の受けやすさ、F 視覚認知の困難さ、G 文字から音への変換の困難さ、
H 刺激の選択の困難さ、I 目と手の協応動作の困難さ

《解説》

国語の教科書の読み方として音読・朗読があり、音読の形態として一斉読み、円陣読み、共（とも）読み、追い掛け読み、分担読み、役割読み等があります。状況に応じて使い分けることで読む力が付いてきます。書くことに関しては、子どもが授業時間内に書くために、枠や昇目があるノートやワークシートを数パターン用意し、子どもが選択して使えるようにしたり、書く時間を確保したりするなどの工夫が考えられます。

学級の中には読むことが苦手な子どもがいます。単語や文のまとまりを分かりやすくするための方法としては、線で区切る、分かち書きにする、間違いやすい単語を丸で囲むなどがあります。また、音読で読んでいる行を分かりやすくするための方法としては、1行ごとにラインマーカーで色を変える、行間に線を引く、定規で他の行を隠すなどがあります。書くことが苦手な子どもがいます場合は、書く量の負担軽減のために、ワークシートを使用したり、大事なところだけ写したらよいようにしたりするなどの方法があります。また、鉛筆の形や大きさ、持ち手などを工夫することも考えられます。

支援が必要な子どもの中には、自分だけ支援を受けることに抵抗を感じる場合があります。そのことを解消するにはまず、学び方の違いを認め合う学級づくりが大切です。

【工夫点】

- ・子どもが読みやすいように教科書に線を引いたり、単語を丸で囲んだりする。（小中 工夫例 61）
- ・書くことが苦手な子どものために、いろいろな形や大きさの鉛筆を使う。（小 工夫例 62）

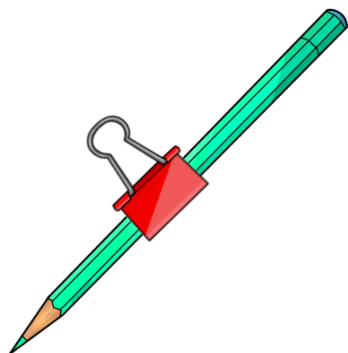
◆工夫例 61 「子どもが読みやすいように教科書に線を引いたり、単語を丸で囲んだりする」

今日はとてもよい天気
だったので友達と公園に
行きました。
「おにごっこ」をするか「か
くれんぼ」をするか「意見が
分かれたけれど、ジャンケン
をして「かくれんぼ」をする
ことになりました。

《小学校》

子どもに読ませた後、読みにくい所にスラッシュを入れて分かりやすくします。また、間違いやすい漢字を丸で囲んで、意識して読めるようにします。読む行をとばさないように、ラインマーカーで色を付けます。

◆工夫例 62 「書くことが苦手な子どものために、いろいろな形や大きさの鉛筆を使う」



《小学校》

鉛筆にダブルクリップを付けると、握るときに指と鉛筆の間に空間ができ、力をコントロールしやすくなります。他にも、太い三角鉛筆、各種の鉛筆グリップ、太めの芯の鉛筆など、市販の用具にも活用できるものがあります。